

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年3月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471900518		
法人名	社会福祉法人慈照会		
事業所名	グループホーム ふの慈照園		
所在地	三次市布野町上布野 1 0 5 9 - 2 (電話) 0 8 2 4 - 5 4 - 7 1 1 1		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3471900518-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年3月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「笑顔・安心・応援」の基本理念のもとに、利用者・家族に家庭的な雰囲気の中で、安心して暮らしてもらえる事業所を目指しています。開所当初より、多くの来訪者がある。現在でも、年間を通じ延べ約1300人の面会者があり、出来るだけこの状況を維持し親しみやすい事業所を目指しながら、家族や親戚等のコミュニケーションを親密にし情報を共有し、認知症の方が安心した日常生活を送れるようにしたい。地域との関りについて、昨年から取り組んでいる通学路等の清掃等を継続し、少しでも地域との関りを深める様に色々な場を通じ実施・協働していきたい。また、高齢・重度化による健康管理や認知症研修等職員の質の向上にも引き続き取り組んでいきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この法人は40年も前から社会福祉法人を設立し、先ず養護老人ホーム慈照園の開園から始まって、開所8年目のグループホームふの慈照園まで13施設もある。又、創業者の「福祉と医療は一体でないといけない」の強い信念に基づき、医療法人微風会を20年前に設立し、現在、難病専門病院として全国からの入院患者を受け入れている。この事業所の特徴としては医療連携が強く医療面（特に認知症状）で安心であること、市委託での管理運営の関係で行政との連携が強く、運営に対し行政の関心が向けられている点にある。居室からは田園風景が広がり山並みが望め、心身の痛みを緩和して身も心も癒す優しい環境と穏やかな暮らしがこのホームにはある。管理者と職員は心一つにして、日々のケアに目標を掲げ、自己評価でモニタリングしながら改善を図り、利用者と家族に生活の安心と喜びを与えている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の運営理念を基に、「グループホームふの慈照園」独自の基本理念を策定し、朝礼等で確認している。	「事業所独自の理念」は事務所に掲示されているだけでなく、朝礼時に度々、確認・解釈・掘下げが行われており、全職員に共有され実践に活かされている。又、法人年度目標、事業所の月間目標とあわせて、半期ごとの個人目標が立てられ、それは自己評価により次の更なる改善、質の向上へとつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の奉仕活動(地域を決め、月2度の市道の清掃と通学路清掃)や行事(秋祭・とんど等)に参加し、地域の保育所などとも交流している。	開設当初、地域と若干の軋轢はみられたが、それは事業所の奉仕活動等の地道でたゆまぬ努力により解消されつつある。秋祭りの獅子舞の事業所への立ち寄りや保育所園児の来園による発表会等は利用者の楽しみとなっている。またご近所より花の種が届けられる等、地域との交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	医療機関の協力の基、地域の方を中心とした認知症講演会を開催していたが、現在は全市の取り組みを実施し地域の方の参加を呼びかけている。キャラバンメイドに参加し地域研修や交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で意見を聴いて、サービスの向上や地域防災など地域との関わり方などの意見を取り入れ、サービスの向上に取組んでいる。	運営推進会議は3ヶ月に一度程度の開催ペースではあるが、市行政担当者、地区行政担当者、児童民生委員や近隣住民の構成によるボランティア団体等の出席があり、活発な意見交換がされ運営に活かされている。地域の「防災マップ」の説明が行われる等、有意義な会議となっている。	年に1回、家族会が開催され、多くの家族が集うが、運営推進会議への家族の参加は見られない。運営状況・課題をより深く理解してもらい、家族の意見、要望を取り込んだ運営を実施する為、運営推進会議への家族の参加を促す取り組みがされることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市とは、常に連絡を取り介護保険法の取り扱いについて情報交換しながら、指導を受けている。	この事業所は市より委託を受けて運営されている関係で市担当窓口との情報交換は密に行われている。運営推進会議には毎回、行政担当者の出席があり、運営状況は十分に把握されている。運営上の課題が発生すれば即、投げかけられ協力関係に基づき問題解決が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	常に身体拘束を認めないケアに取り組んでいる。研修会・勉強会にも積極的に参加できるように取り組み職員も認識している。	毎月1回、法人内研修があり、身体拘束に関するテーマも繰り返し取り上げられている。職員2～3名が研修に参加し、その内容は研修報告としてまとめられ、全員に回覧し共有されている。車椅子から立ち上がる利用者に対しても規制はせず「見守る」を徹底し、身体拘束のないケアが実施されている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修する中で、常に高齢者の虐待防止に努めている。管理者は常に利用者の表情を確認するなど異変に気付くようしている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	研修等で必要性を学び伝達研修等で周知している。また広報誌や家族会で必要性を伝えている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には、時間をかけ内容を説明し理解を得ている。説明チェック表を作成し、説明に漏れがないように努めている。解約時は、必要があれば他の施設等の対応が決まってから解約している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	意見箱設置や重要事項説明書等に明記し、掲示板で公表していることを説明し、理解を得ている。	訪問し易く、話し易い雰囲気作りが全職員に徹底されており、家族の意見・要望は主に面会時に寄せられている。又、年1回行う家族会では事業報告・近況報告を行い、運営に関しての家族の理解を深め、更に事業所独自のアンケートを実施することにより家族の意見・要望を把握するよう努められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	機会あるごとに、朝礼や部署会で職員の意見を聴き改善に取り組んでいる。	ユニットごとの部署会、2ユニット合同の部署会がそれぞれ月1回、定期開催されており、情報の共有化・標準化が図られるとともに、職員の意見・要望の発言の場ともなっている。又、管理者・主任と職員間の距離は近く、相談し易い関係作りが出来上がり、信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	数年前より、人事評価制度を登用し自己評価により、評価者が評価し賞与に反映している。又、半期ごとの自己目標を立て質の向上に努めるよう意欲を持たせる。資格取得した場合一時金を支給したり、敷地内に託児所があり勤務しやすい、状況整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	最低月一回は、法人内で各研修を実施し、個々に応じては必要に応じ市外等の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一敷地内にある医療法人との関係により、看・介護職の合同の研修会を開催し研修を深めている。又、一昨年と昨年は三次地区小規模事業所（9事業所参加）の研修会を開催し情報を共用しながら質の向上に努めた。今年は、事業所訪問等で他事業所の交流を継続している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所相談時の施設見学や面接時時間を取り、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>見学や利用内容等の説明時に時間をとり、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談の段階で、本人や家族の要望を聴き必要に応じ支援に務めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>掃除や料理手伝い等の会話の中で学ぶことも多いので、常に声がけをし、信頼関係に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族会や来訪時に情報交換を行い、コミュニケーションを図り支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族・知人等の来園時、コーヒーやお茶等を提供しゆっくり落ち着いて話ができるよう努めている。</p>	<p>家族・知人の訪問者には「おもてなし」の気持ちで接し、訪問し易い雰囲気づくりがされている。又、思い出の「お寺に行きたい」等、普段は難しい希望も誕生月には「思いをかなえてあげる」を取り入れ、馴染みの人や場所の関係が途切れない支援に努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ディールームでの座る位置を工夫したり、レクリエーションなどで関わり、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院者の場合、2～3日に一度は面会をしている。他の施設等に入所・利用され契約が終了しても、月一回程度の面会を約6ヶ月間は継続し、関わりを保つように努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。	午前・午後の「お茶タイム」では職員も一緒に利用者に寄り添い、ゆったりとした時間を過ごし、思いを把握するよう努められている。又、接遇向上活動の月度行動目標に『察して知ろう利用者の想』が掲げられており、法人全体で取り組む3月度の重点項目として全社員に徹底が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	十分把握していない点もあるので、家族の来訪時に出来るだけ聴取する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族や本人の会話の中から、個々に応じた趣味・特技を把握する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画を作成する時は、家族と話し合い話をし意見はきいている。また必要に応じて、本人に聞き反映するようにしている。</p>	<p>担当者によりモニタリングされた資料をもとに、担当者会議を開催し、本人・家族の意向・要望を始め、それぞれの関係者の意見を調整・反映した介護計画が作成されている。作成された介護計画は家族に提示され、承認を得られたものを最終決定分としている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>独自の生活記録簿（様式）により、情報を共有しやすくし、見直しや情報交換しながら見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>担当者が個々の内容を常に把握し、要望・体調管理を配慮しながら、柔軟な支援をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議で意見を聴き又、ボランティアや警察、消防機関等と協力しながら支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>認知症専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関受診の支援をしている。</p>	<p>同一系列内に認知症専門医により運営されている医療機関があり、そこでの定期的な受診が継続されている。家族や本人の希望により、それ以外の眼科や外科の専門医や掛かり付け医での受診も、職員対応により適切な支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診する医療機関の看護師による、週1～2回の健康チェックにより良好な関係を保持しながら、状況により受診の必要性の相談を電話等で常に連絡・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行くなどし、家族・医療機関へは情報交換や相談に努め、退院時に備えて連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、主治医と相談しながら全員で方針を共有していくことを説明している。	契約時に本人・家族に「看取りの指針」を説明している。その時期が近づいたら再度、本人・家族の意向を確認し、医師の意見も踏まえ方針を固め共有している。又、外部講師を招き「緩和ケア看取りの実際」等の内部研修を行うなど、看取りに関する知識・方針を職員間でも周知・共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒防止などは、カーペット・マットを敷くなどして工夫している。誤薬防止は、職員が直接手渡し確認している。個々の介護計画により、事故防止に取り組み、訓練や救急対応の研修（消防署指導）も行なった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練は実施しているが、地域の防災マップにより避難箇所等の確認を行い、運営推進会議などで協力を依頼している。	年2回、消防訓練は実施されている。災害時における「スムーズな避難」の点では、建物構造が平屋建てであることがこの事業所の最大の強みである。運営推進会議では隣接する市社会福祉協議会から『合同での消防訓練の実施』が提案される等、防災に関する意識と備えは強い。	地域防災マップによる避難場所の確認や食料品の備蓄等の災害時における備えは整いつつある。隣接する市社会福祉協議会との「合同での消防訓練」を実現させ、『両者連携の防災体制』を定着させることにより、特に夜間の避難誘導の強化が図られることを切に期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間や、研修や会議等でプライバシーの確保の徹底を行っている。	朝礼で1分間スピーチや5分間勉強会を取り入れ「尊厳・友達言葉」等、自分の考えを发表或し、普段の気付きや事例をあげて話し合いを行い、皆で意識を高め、あるべき姿を確認し合っている。又、研修や代表者会議でもテーマとして取り上げられ統一が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をし、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人に合った服装を重視し、常に清潔にした着やすいものを身に着けて貰っている。また、出張理容訪問により、頭髪の乱れにも気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の菜園で四季に応じた野菜を栽培し、出来た喜びや、調理の下準備や配膳・後片付けをしてもらいながら食事の楽しみを実感してもらうようにしている。	メニュー作成や食材の発注、食事作りは月々、職員3名が交替で行っているが、野菜の皮むきやお茶っ葉の準備、味付け等、利用者の出来る範囲ではやってもらっている。庭の畑で自分たちが栽培したものを食材とする時は皆で盛り上がる。おやつホットケーキ作りや、庭でのテーブル食事楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考えた献立表を作成し、提供している。また、食事の記録により個々に応じた量や、一日を通じお茶の時間を決め、水分補給を習慣化している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後個々の状態により、口腔ケアを実践し清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を作成し、個々に応じ排泄時間には、トイレ誘導を行う支援をしている。</p>	<p>オムツを減らし極力、パットや布パンツを使用するよう努められている。意思表示がない時は、排泄表を参考にしたり表情や仕草をみてトイレに誘導し、自立に向けた支援がされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>予防と対応のための、散歩や飲食物の工夫等で便秘解消に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週の曜日で入浴日を決めているが，本人の体調や希望により変更することで楽しんで入浴してもらっている。</p>	<p>日曜日以外は毎日、入浴準備をして一日、約3名が交替で入浴している。入浴の曜日は決められているが、本人の希望により変更し、楽しんで入浴してもらうよう柔軟な支援がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの生活習慣により、安心して気持ちよく過ごせるようにし、また穏やかな時間を共有し安眠への支援をしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬の目的や副作用、用法等理解しているが時により、かかりつけ医の看護師に再確認をするなど、服薬の支援を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	本人の生活歴により、農作業や掃除・レクなど支援をしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	ドライブ等で戸外に出かけられるよう支援している。また春や秋は、遠出を計画している。	日常的には庭を歩いたり、近隣の福祉施設まで散歩したりしている。近くのコンビニ店へ買い物に出かけたり、通院の帰りに遠回りしてドライブを楽しむ事もある。又、年に1回はマイクロバスで花見や初詣に遠出したり、行楽施設での外食も楽しんでいる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	個々の希望や管理能力を家族と相談し支援している。購入時は、できるだけ、本人に支払って貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるように積極的に応援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔にし、居心地よく過ごせるような工夫をし、季節感のある花や置物等を飾って工夫している。	事務所を中心に左右に2ユニットが広がっており、職員の移動もスムーズである。管内は全体に清掃が行き届き、年2回行われるワックスがけもあり、清潔感が保たれている。リビングの高い窓には夏場はスタレをかけ、居心地良く過ごせる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広間以外にもソファを置くなどして、居場所の工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、馴染みのものを置くなど個々の居室の配慮している。	テーブル・チェスト・籐イス等の家具類やテレビや花瓶等の備品、写真やホワイトボード等の好みのもの、馴染みのものが自由に持ち込まれ、過ごしやすい部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるように、手すり等は設置してあるが、十分とは思えない。（市の設計・建築質施設）		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふの慈照園
作成日 平成25年 4月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	グループホームふの慈照園が地域の方々に、事業所の運営について十分知られていない。	地域広報誌「布野まちづくり」への掲載をして、町内の多くの方にグループホームを理解してもらう。	地域広報誌「布野まちづくり」2ヶ月に一回でもグループホームの特集を掲載してもらう。	12ヶ月
2	3	運営推進会議の開催が少ないので、多く開催できる様にする。	運営推進会議の内容を以前より工夫をし、昨年より開催回数を増やす。	会議の内容を工夫する。家族については、毎月のお知らせ文で、趣旨を説明し全員に出席を依頼する。また開催日も検討する。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。